

2018

## 矢切通信

### 第二話



←葉のない枝に黄色い花をつけるロウバイ。春一番の花だ。この花が満開になるころには本格的な春がおとずれる。

→1月13日は、よく晴れたが風が少し強めめだった。

一週間ぶりの矢切の渡しだ。三泊四日で膝関節の内視鏡手術を終えた舟頭さんは、心なしか片足を引きずっているようだったが、同じ手術をした昨年とは違って楽そうだった。

山陰や北陸方面では大雪だが関東、とりわけ矢切では風はやや強かったがよく晴れていた。

そんな日に初老の男の人が一人、棧橋のところまでぽつんと立っていた。近づいて行くと、

「向こう側についたら電車に乗れますか？」

私のほうに向くと、待ってましたとばかりにそう話かけてきた。

「ええ乗れますけど、どちらへ行くんですか？」

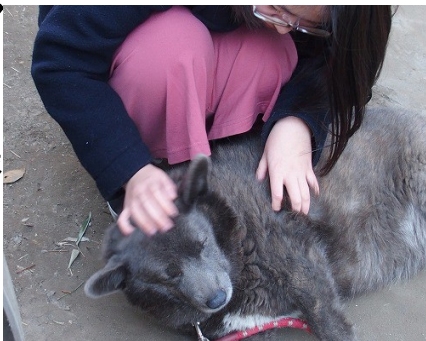
電車はあるが、行く方向によってはこちらに戻ってきたほうがいいので行く先を聞いたところ、

「錦糸町に行くんです」

錦糸町といえば東京だ。柴又駅から京成電車で高砂に出、そこで乗り換えて新小岩でJRに乗り換えればいい。「どちらから来たんですか？」

## 今週のクマ

→犬好きの人が来た。寝転がって愛想を振りまくクマ。



→昨年の12月上旬に咲いていたビワの花が1か月後の1月上旬には小さな実をつけていた。半年後の6月上旬には黄色く熟れ、食べごろになる。



「住まいは船橋です」

船橋市というと千葉県だ。船橋駅からJRに乗れば錦糸町なら一本だ。不思議に思ってたずねた。

「どうして、わざわざ矢切の渡しに乗って行くんですか？」

「私は東芝に勤めていたんです。OB会がありましたね、そこで近くていいところがないかねえと問われたもんだから、それじゃ矢切の渡しなんかどうかといったら、そりやあいってことになりましたね、下見に来たんです」

船橋に戻るといふのならいいが、それで錦糸町に行くといふのはわけが分からない。聞くと、

「いやあ、お恥ずかしい。ついでにこれから馬券を買いにね、行くんですよ」

それでわざわざ遠回りになるのを覚悟のうえで矢切の渡しに乗りに来たのか。それなら納得できる。

それにしても熱心なことだ。下見をすることが熱心ということではなく、馬券を買いにわざわざ錦糸町まで行くことが熱心なのだ。この時代、錦糸町の場外馬券売り場にでかけなくても、家にいなからインターネットでも買えるのに……。